

平成 28 年度 後学期
お茶の水女子大学 生活科学部 特別設置科目のご案内
(ECCELL 社会人プログラム)

後学期は、集中講義で 2 科目が開講されます。

※27 年度まで木曜夜間に開講されていた「現代保育課題研究」(ゼミ)は、
「ECCELL 子ども学ゼミ」として土曜日に集中講義で開講いたします。

【前学期】

集中講義：ECCELL 子ども学ゼミⅡ (1 単位)

集中講義：ECCELL 乳幼児教育論Ⅱ (1 単位)

ECCELL 子ども学ゼミⅡ (科目コード 1600153) 1 単位

集中講義 10 月 29 日(土)、12 月 3 日(土)、12 月 24 日(土)、1 月 7 日(土)

担当：浜口順子 (お茶の水女子大学 教授)

上垣内伸子 (十文字学園女子大学 教授)

内海緒香 (お茶の水女子大学) 安治陽子 (お茶の水女子大学)

主題と目標

受講生自身の関心をもとに、乳幼児の保育や教育に関する問題や、保育現場などで直面するさまざまな課題について、各自研究テーマを設定し、ゼミ形式で話し合いながら研究レポートの作成をめざします。たとえば、子どもの発達や育ちと保育の関係、実践現場における子育て支援のあり方、観察記録やカンファレンスの活用、保育環境や表現の問題、海外の保育との比較や保育の歴史など、各自のテーマについて検討を行い、ディスカッションをするなどして、問題関心を深めていきます。人数が多い場合は、研究テーマによって少人数のグループに分かれるなど、柔軟に対応したいと思います。学期末に、学習・研究結果をまとめて発表します。希望者には日本保育学会などでの発表もサポートします。

受講条件・その注意

保育現場をもつ社会人、および子どもや保育・乳幼児教育に関わるテーマを持つ社会人向きですが、学部生の参加も可。

授業の形態

■講義 ■討論 ■講読 □実験 □実習 □実技 ■発表 □演習

評価方法・評価割合

■ 出席 (割合：50%)

■ 発表 (割合：50%)

授業日程

①10 月 29 日 (土) 13:20-16:30 ゼミ

②12 月 3 日 (土) 13:20-16:30 ゼミ

③12 月 24 日 (土) 13:20-16:30 ゼミ

④ 1 月 7 日 (土) 13:20-16:30 研究発表会

ECCELL 乳幼児教育論Ⅱ (科目コード 16O0155) 1 単位**集中講義 1 月 28 日(土)、1 月 29 日(日)****担当：安治陽子 (お茶の水女子大学)****主題と目標**

子どもが育っていくうえで保育・乳幼児教育の果たす役割は、これまで考えられていたよりもずっと大きなものであることが明らかになってきている。そして今、日本の保育は制度変革の時期にあり、これからの時代の保育について、真摯な議論と実践の努力が続けられている。日々の保育の意味をとらえ直し、これからの時代の保育を志向して、さらなる質向上へとつなげていくことは、このような時代の要請でもある。

保育の質は、保育の構造やプロセスなど様々な観点から捉えられるが、保育実践の見地に立つと、そこでの子どもの「遊び」がいかに充実しているかということは、保育の質を表す本質的な問いであるといえるだろう。そこで本授業では、保育の質を捉えるために、保育の場における「遊び」とそこでの豊かな「学び」を取り上げて検討したい。

また、すべての子どもにとって充実した「遊び」と「学び」が保障されるために、どのような保育のあり方の可能性があるのか、様々な困難や障害を抱えた子どもを含め、小学校への接続も見通しつつ、具体的な事例を通して考えたい。

保育現場の見学とその振り返り、受講生自身の実践を共有するディスカッションなども取り入れる予定である。それらを通して、子どもが遊び、学び、生活して育ちゆく場の構築について、受講生とともに学び合い、深め合う授業としたい。

授業の形態

■講義 ■討論 □講読 □実験 □実習 □実技 □発表 □演習

教科書・参考図書

授業で紹介する。適宜レジュメや資料を配布する。

評価方法・評価割合

- 小論文 (レポート) (割合：50%)
- 出席 (割合：20%)
- 討議 (割合：30%)

授業日程・授業計画

1 月 28 日 (土) ①9:00-10:30 ②10:40-12:10 ③13:20-14:50 ④15:00-16:30

保育における遊びと学び

- ①「遊びを通しての保育・教育」とは
- ② playful learning, playful pedagogy (遊びに満ちた学び・教育) について考える
- ③【保育施設見学】遊びと学びを保障する保育・養育環境の構成
- ④【見学の振り返り】

1 月 29 日 (日) ①9:00-10:30 ②10:40-12:10 ③13:20-14:50 ④15:00-15:45

子どもの発達理解と保育における発達支援

- ①子ども理解と発達アセスメント— 個と集団のニーズをとらえる方法 —
- ②特別な配慮を必要とする子どもを通して保育のあり方を考える (1)
虐待・マルトリートメント (不適切な養育) を経験した子どもの保育と親支援
- ③特別な配慮を必要とする子どもを通して保育のあり方を考える (2)
発達障害やその傾向のある子どもの保育と親支援
- ④保幼小接続の現状と課題— 場の移行を通して親子の成長を後押しする

学生へのメッセージ

子どもが生活し、育ち、やがて巣立っていく場として、保育・乳幼児教育のあり方を考えます。そこでの経験が、子どもの今とこれからのにとってどのような意味を持つのか、内外の知見や実践を紹介しながら、ともに考えていきたいと思ひます。前学期の授業を履修していない方も受講できるよう、授業内容、構成を工夫します。